

留学先：The University of Findlay

氏名： 加藤 裕樹

【はじめに】

4月は最終試験もあるということで、いつも以上に勉学に励んだ月でした。人生の中で、こんなに勉強したことはないのではないかといいくらい、机に向かってペンを走らせ、パソコンを叩いていました。また、「別れ」を意識する月でもありました。人とのつながりをこれからも大切にしていきたいと、あれほどまでに思ったことはないかもしれません。

【小学校訪問】

フィンドレーで過ごす最後の月ということで、いつも以上にたくさん、小学校を訪問しました。毎週行っている幼稚園生と1年生の合同クラス、別の学校の2年生のクラス、また別の学校の4年生のクラスに行き、たくさんの子どもと関わることができました。

2年生のクラスでは、日本語の授業を1時間させていただきました。日本語の簡単なあいさつと、自己紹介を練習しました。子どもたちは楽しそうに活動していましたが、言語を教えるという難しさを痛感した経験でした。反省の多い授業でしたが、とても貴重な経験ができました。

また、4年生のクラスでは、「はらぺこあおむし」の絵本を日本語で読み聞かせしました。英題は「The Very Hungry Caterpillar」というのですが、全員一度は読んだことがあるくらいの最も有名な絵本の一つです。それを日本語で読み聞かせすることで、内容を理解しながら、日本語を感じてもらいたいという思いでした。知らない言語なのに、内容を理解できたのが嬉しかったようで、これを機に日本語やその他の外国語にも興味を持ってもらえたらいいなと思います。



【See you later, friends!】

あるアメリカ人の女の子の友達とこんな会話をしました。

加藤 「お別れするときに、『Goodbye』っていうといつも悲しくなるよね。」

友達 A 「Don't say goodbye, Yuki. Just say see you later.」

4月は、たくさんの人に See you later という月になりました。一緒に辛い授業を乗り越えたクラスメート、お世話になった教授たち、私を温かく迎え入れてくれた、教育学部のみんな、毎週会っておしゃべりをしていたおじいちゃん、そして、毎週通っていた小学校の子どもたち。これほどまでに、人とのつながりを大切にしていきたいと思ったことはありませんでした。出会ってくれた全ての人に感謝です！



【まとめ】

日本に帰ってきて、数日が経ちます。次の最終報告書で、約9ヶ月の留學生活の振り返りをしていきたいと思ひます。読んでいただき、ありがとうございました。